



さあ、寄つてらっしゃい
みてらっしゃい

奥谷洋一郎監督作品

ニッポンのみせものやさん

「見世物小屋」って知っていますか？

昔はいろいろなお祭りや縁日で見かけた「見世物小屋」
最後の一軒と言われる見世物小屋一座との
10年間にわたる交流と旅を記録したドキュメンタリー

映画や芝居とは違うから、長い時間はかかりません

博物館に行つたってこんなものは見られない

こわいけど、なんだか懐かしい

花園神社、へび女、お化け屋敷 最後の見世物小屋の暮らしと人情

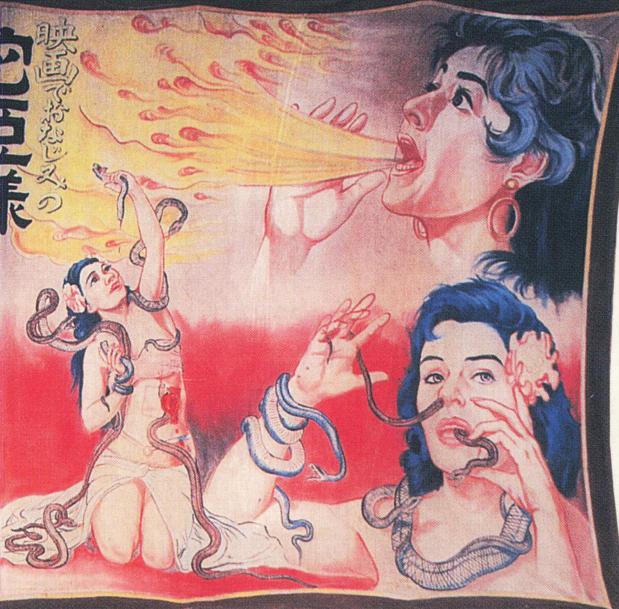
8ミリ及び其の他の
撮影を堅くお断り致します



叶大

蛇姫様

映画や芝居の
時代



昔はいろんなお祭りや縁日で見かけた「見世物小屋」。へび女、人間ポンプ、タコ娘、ロクロ首、オートバイサーカス…。最盛期には数百軒を数えたという見世物小屋、その最後の一軒と言われる大寅興行社。普段は垣間見ることができない見世物小屋一座の旅から旅への生活と歴史。『ソレイユの子どもたち』で山形国際ドキュメンタリー映画祭2011アジア千波万波部門・特別賞を受賞した映画監督・奥谷洋一郎は、お化け屋敷のアルバイトをきっかけに、見世物小屋一座と出会い、共に旅するようになっていく。北海道から九州、日本を縦断するなかで見つめる一座の暮らしと人情、そして10年にわたる交流から滲み出る、一瞬の人生の輝きをみつめる。

「みたところからみたところまで、いつ入られましても、始まりからみることができます」

記録に残さなければ消えてしまう、 そう思っていた

「人か獣かケダモノか

最後の見世物小屋一座と言われる、大寅興行社。日本全国、旅から旅に回っている。目的地に着けば荷物をトラックから下ろし、一座全員で仮設の小屋の設営にかかる。犬や猿やへビも一座の一員だ。見世物小屋の名物とも言える看板がかかり、夜になると興行が始まる。小屋に明かりが灯り、客寄せの口上が場を盛り上げる。太夫と呼ばれる出演者たちの出番だ。怖いもの見たさのお客が小屋に吸い込まれていく。

大寅興行社の歴史を物語る、数々のモノクロの写真や仮設小屋の模型。かつて見世物小屋を営んでいた人たちも訪ねてくる。昔話に花が咲く。そして毎年恒例の花園神社の酉の市。大勢の客の拍手が響く。

「これが本当の見世物現代版
みせものやさん
ニッポンの
みせものやさん
これが本当の見世物現代版
みせものやさん
オール見世物館だ



出演:大寅興行社のみなさん|監督:奥谷洋一郎
監督:江波戸遊士|編集:江波戸遊士、奥谷洋一郎|整音:黄永昌|音楽:街角実
2012年|日本|デジタル|90分|配給:スリーピン www.dokutani.com

今年もやつきました。西市の季節! 新宿帰つてきます!

12月18日(土)~12月24日(金)“一週間限定”モーニングショー!!

連日am10:00ヨリ(1回のみ上映) 料金(税込):一般¥1,500/大高¥1,300/中小ニア¥1,000

※上映期間中、奥谷監督のティーチインを予定しています(詳しくはHPまで)

『ニッポンの、みせものやさん』はDVD化の予定はございません。ぜひ映画館でご覧ください

新宿K's cinema

新宿区新宿3-35-13 JR新宿駅東南口大塚家具手前

Tel.03-3352-2471 www.ks-cinema.com



甲州街道